



村上^{かぐら}の神楽

○神楽とは

神を祀^{まつ}る際に演じられる芸能を神楽といいます。神前で鎮魂^{ちんこん}・清め^{はら}・祓^{はら}いなどを行ったものが古い形とされ、神楽の語源^{ごげん}も「神座^{かむくら}」からきたと考えられています。神楽には、宮中^{みやちゆう}で行われる御神楽^{みかぐら}、各地^{しよみん}で庶民^{しよみん}が行う里神楽^{さとかぐら}があり、里神楽の中には巫女神楽^{みこいせ}や伊勢神楽^{いせ}、出雲神楽^{いずも}などいくつかの系統^{けいとう}があります。

千葉県内の神楽の多くは記紀神話^{ききしんわ}*を題材^{もくげき}とした黙劇^{もくげき}で構成されています。演者は神楽面をつけて個性豊かな神々の姿を装い、採物^{とりもの}と呼ばれる扇^{あふぎ}や幣^{ぬさ}などの小道具^{せうどうぐ}を使いながら、楽器^{がくぎ}の音に合わせて演じます。

○村上の神楽

村上^{しちひやくよしよ}の七百餘所神社^{しちひやくよしよ}では、市指定無形民俗文化財の「村上の神楽^{けいしやう}」が保存会によって継承^{けいしやう}されています。出雲神楽系の里神楽^{しよみん}で、もともとは十二座^{じふにざ}*で構成されていましたが、現在では九座のみ行われています。

神楽は1月15日の祈年祭^{きねんさい}と10月9日の例祭^{れいさい}の際に、境内の神楽殿^{でん}で奉納^{ほうなう}されます。午後2時頃に神楽殿で祝詞^{のりと}を読みあげ、続いて神楽が始まります。



村上の神楽 (平成30年撮影)

◇ 神楽の演目

① 修祓 ^{しゆぼつ}	神楽殿と参加者を祓 ^{はら} い清めます。
② 座清め ^{ざきよめ}	火吹男 ^{ひぶつとこ} が神を迎える前に掃除をし、道案内役の猿田彦命 ^{さる た ひこのみこと} が邪神 ^{じゃしん} を退散させるお祓 ^{はら} いをします。
③ 翁の舞 ^{おきな まい}	かすがさま ^{かすがさま} が祭祀をつかさどり、平和な村落の生活を祝福する姿を表した舞です。
④ 種おろし (種蒔き) ^{たね ま}	稲荷様 ^{いなり} (五穀の神) が畑を耕し、狐が畑に種をまきます。この時、実際に種 (米) がまかれます。

⑤ <small>うずめ</small> 鈿女の舞	<small>あまのうずめのみこと</small> 天鈿女命が弓矢を持って舞います。
⑥ <small>ゆみこ</small> 湯巫女の舞	天鈿女命が笹の束を持って舞います。湯立ての神事を模したものです。
⑦ <small>たまとさま</small> 玉取り様の舞	姫が大事な宝物の玉を手を持って <small>さんじん</small> 山神と共に舞い、豊かで平穏な生活を表します。そこへ鬼が出て、玉を奪 <small>うば</small> い平和を乱します。そこで山神が玉を取り戻し再び平和になります。
⑧ <small>えびす</small> 恵比寿の舞	恵比寿がおかめを釣り上げます。
⑨ <small>みかぼ</small> 甕乾しの舞	火吹男がお供えの餅 <small>もち</small> を見つけ喜んでいところに、山神が現れて、火吹男から餅を取り返し、神に供えなおします。最後に神送りをして神楽は終了です。
その他	終了後に神楽殿からお餅やお菓子が観客に撒かれます。 お餅は氏子の家でついたものが当日神社に持ち寄られます。

○ゆだ湯立ての神事

1月の祈年祭では、神楽のあとに湯立ての神事が行われます。神楽殿の前に大釜おおがまを設置し、神主が煮えた湯に秘文字を書きます。その後、笹の幣で湯を周囲に浴びせ、神主も湯を被ります。その湯を浴び、笹を1本持ち帰ると1年間平穏に暮らせるといわれています。



○村上の羯鼓（八千代市指定文化財）

神楽で使われていた楽器で、2本のバチで打面を叩いて演奏されます。胴の内側には天正11年（1583）4月8日に創られたと墨で書かれており、村上での神楽の起源に関わっているのではないかと考えられています。

本内容は、2010年10月より郷土博物館旧ホームページ内「民俗探検隊」コーナーで掲載していた記事を再編集したものです。



*ちょっと付け足し

神座：神事を行う際に神様を呼び降ろす神聖な場所のこと。

記紀神話：古事記・日本書紀に記された日本の神話のこと。

座：神楽の演目の数え方。演目の数から「十二座神楽」と呼ばれることもあります。

参考文献：八千代市『八千代市の歴史 資料編 民俗』平成5年

八千代市教育委員会教育総務課文化財班「財やちよ No.2 八千代市指定文化財～村上の神楽・羯鼓～」平成29年
房総のむら「令和3年度屋外展示「千葉の民俗芸能」展示解説書」令和3年

やち博ライブラリー 第7号
発行日 令和3年10月23日
編集・発行 八千代市立郷土博物館